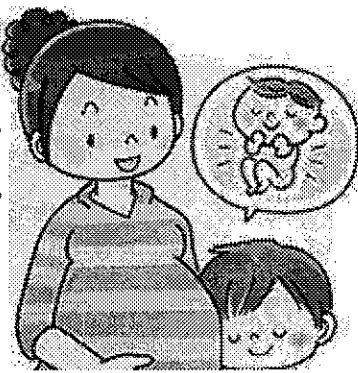


鹿角の



ネットで秋厚労ニュース
http://www.shukouro.net/

ID shukouro
パスワード 0188643341

メール syukoro-kyosen@w3.dion.ne.jp

NO1768号

2017年6月5日

秋田県厚生連労働組合

秋田市山王5-4-2

TEL 018(864)3341

FAX 018(864)3349

秋厚労ニュース

最大の課題は命

鹿角の医療と福祉を考える市民町民の会 第2回地域調査

鹿角住民による第2回地域調査が進んでいます。予備調査で判明した「地域の課題」の中には「鹿角は県内で最も短命」というショッキングな内容も。「市民町民の会」は、この最大の課題「いのち」に向き合い、「本調査」で原因や解決方向を究明しようとしています。

鹿角「予備調査」から浮かび上がった鹿角の課題

<p>1 社会や地域の変化</p> <ul style="list-style-type: none"> 《1》 空き家 《2》 人口減少 《3》 若者の減少 《4》 地域全体の印象 	<p>3 地域組織や担い手の状況</p> <ul style="list-style-type: none"> 《1》 民生委員 《2》 ボランティア 《3》 担い手 《4》 人との関わり 《5》 自治会運営
<p>2 社会的弱者の状況</p> <ul style="list-style-type: none"> 《1》 交通弱者 《2》 買物弱者 《3》 生活弱者 《4》 高齢化 《5》 認知症 《6》 ひきこもり 《7》 一人暮らし 《8》 除雪 《9》 障がい者 《10》 不登校 	<p>4 公的課題と対応</p> <ul style="list-style-type: none"> 《1》 各種サービス 《2》 公的事業 《3》 社会福祉協議会 《4》 公的施設 《5》 福祉施設 《6》 医師不足 《7》 健康・病氣 <p>☆ 4つの柱と26大項目 ☆ 中項目・小項目は省略</p>

本調査開始 短命の原因や解決方向を究明

「鹿角の医療と福祉を考える市民町民の会」は、2011年、日本医療総合研究所の協力の下、日本福祉大学大学院・牧野忠康教授を中心に第1回地域調査を行い、医療に関して「住民・行政・医療機関がもつと対話をすべき」という結論を導き出しました。

その後、この3者の対話は明らかに増えました。2014年「こころの健康学習会」は住民・行政ら11団体により大成功。2015年、行政主催「市民公開講

座」に住民要望の岩手医大精神科・星克仁先生を招聘。同講座最多210人の住民によって病院講堂が満杯。「安心して暮らせる地域づくり集会」には、かづの厚生病院も協賛団体になりました。

住民が組み立て 相手に合わせた調査

そこで、三重短期大学・長友薫輝教授指導の下、2017年1月から数か月をかけて、より視野を広げ

「第1回地域調査」の意義は大きいと思われま

地域全体を視野に

一方、「市民町民の会」は、地域の実情に触れるにつけ、「公共交通の縮小で老人が引きこもり、病氣や寝たきりになる」とか「母親が心の病で子どもの居所がな

た「第2回地域調査」が行われて

今回の調査の特徴は、「市民町民の会」がより主体的・自発的に調査を組み立てて

れを4つの大きな柱に分類したうえで、26大項目・48中項目・165小項目に整理。「鹿角の課題」が浮き彫りになりました。

この「課題」の中には「鹿角は男女とも県内で一番短命」という衝撃の事実も含まれています。「短命」の最大の原因は「脳卒中」で、「自殺」を上回っています。精神科や産婦人科のみならず、地元の医療機関が地域の「いのち」を守り切れていない、と言っても過言ではありません。

命を守り切れてない

1月から4月まで行った「予備調査」では、延344件の「地域の姿」を把握。こ

「市民町民の会」は、5月以降、この最も重大な課題「いのち」を軸に、「本調査」という形で、原因や解決方法を究明し始めています。